

平成21年度第1回流山市環境審議会議事概要

1. 日時

平成21年10月1日(木) 13:00～15:30

2. 場所

流山市役所庁議室

3. 出席

(1) 委員

伊藤委員、梅山副会長、新保委員、高谷委員、田代会長、新美委員、畠山委員、平手委員、町谷委員、松島委員、矢野委員、和田委員

(2) 事務局

宇仁菅部長、飯泉課長、あべ木課長補佐、阿部主査、伊藤主任主事、株式会社建設技術研究所

4. 資料

- 資料1 今後の環境行動計画について
- 資料2 流山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）部会素案
- 資料3 流山市生物多様性地域戦略部会素案
- 資料4 今後のスケジュールについて
- 参考資料1 策定部会における検討の経過
- 参考資料2 第2期流山市環境行動計画策定にあたっての市民アンケート結果
- 参考資料3 第2期流山市環境行動計画策定にあたっての事業者アンケート結果
- 参考資料4 8月に実施した意見募集結果
- 参考資料5 流山市環境審議会委員名簿

5. 議事概要

(1) 地球温暖化対策実行計画について

個別意見

- ・国の中期目標は「90年比25%削減」であるなか、90年比の削減率を示す必要があるのではないか。
- ・基準年を国と揃えないと分かりにくくなると思う。
- ・少なくとも短期においては、併記する必要があると思う。
- ・部会では、90年と比較するとプラスとなってしまうため、目標として示せないのではないかという結論であった。
- ・国の数値目標は、現場意見を反映していないことが少なくない。流山市の地域特性との乖離をはっきりさせておく必要がある。
- ・P3、人口の増加が進んだことが90年を基準年にしないとなっているようだが、人口増と相関して排出量が増えているかどうか、確認する必要があるのではと思う。
- ・どのような都市を目指すのかがシナリオに影響してくると思うので、説明を追加してほしい。
- ・基準年について、どうしてこのような考え方になったのか、しっかり説明する必要がある

る。

- ・人口増加も一つの要因である。つくばエクスプレスのときに、山林と市街化区域の量が逆転した。このように、これから10年間人が増えたときに、どこに2万人が張り付いていくのかということも調べる必要がある。
- ・全国の歩調に合わせるのではなく、流山市独自の内容として欲しい。市街地構造・土地利用転換が示されるようなデータを示して頂きたい。
- ・P4、一人当りは減っているのに、総量が増えていることを示せばよい。流山市の特性を説明すれば分かりやすい
- ・前回のレビューをもっと詳しく書くべきである。それを踏まえて、計画を見直すべきである。
- ・P19、市役所率先行動は、市役所編と事務事業編どちらを用いるのか
- ・25%の削減はマクロでの目標である。市民へは積み上げで見せるべきである。
- ・流山市域におけるローカルプランであることを示すべきである。
- ・過去のトレンドとして、2007年における一人当たりの排出量は示すべきである。
- ・P13、三段落目の文章の意味が分かりにくい
- ・P19、市街地二酸化炭素吸収源倍増プロジェクトとあるが、対象は市街地だけであるのか。P24には入っていないので、整合を図るべきである。
- ・P36、吸収源に係る指標で森林面積とあるが、問題ないのか。都市緑化も指標とするという表現の方が良い。
- ・「都心から一番近い森のまち」ということを評価した方が良いのではないか。

(2) 生物多様性地域戦略について

個別意見

- ・斜面林は今後とも残っていくと考えられる。また、残して欲しいと思う。どのように扱う考えであるのか。
- ・地権者と協議して策定を進めて頂きたい
- ・現在選定されている箇所は、地権者との調整は済んでいるのか
- ・一般論として、市ではこのような場合調整を行ってきたのか。
- ・市野谷の森にはオオタカが生息しているのか
- ・計画の推進には農政部門の関わりが必要である。明記した方が良い。また、十分調整すること。
- ・P12、重点地区・拠点の選定理由を明記した方がよいと考える。環境タイプが該当するのか
- ・現在活動が行われている場所。これからも取り組みが行われることがある程度決まっている場所を選んでいる。
- ・P13、重点地区・拠点となりうる場所の文章を見直すこと。
- ・P15、波線矢印の説明は、「精査した上で取り組みを継続する」とした方が良い。